

## 新人看護職員実地指導者研修が終了しました。

新人看護職員の卒後臨床研修が努力義務化され、看護の質向上、医療安全の確保、早期離職防止の観点から新人看護職員研修は不可欠であり、各病院・施設での実施も努力義務となっている。

その新人看護職員研修の実践に必要な実地指導者（新人看護職員の直接の指導者）として新人看護職員へ基本的な看護技術の指導や精神的支援ができることを目標にプログラムに沿って行われた。

研修期間（全日程は5日間）と内容は

- 1回目 5月24日：水田 真由美先生  
和歌山県立医科大学保健看護学部 教授  
【 組織の教育システム、教育に関する知識、新人看護師の現状 】
  
- 2回目 6月13日：鹿村 眞理子先生  
和歌山県立医科大学保健看護学研究科 非常勤講師  
【 学習に関する基礎知識、成人学習者の特徴、学習支援 】
  
- 3回目 6月28日：坂田 真穂先生  
臨床心理士・シニア産業カウンセラー  
【 メンタルサポート支援、コーチング、指導者のストレス 】
  
- 4回目 8月29日：西原 真由美先生、井上 有美先生（ファシリテーター）  
日本赤十字社和歌山医療センター 看護管理室  
【 自部署における技術指導に対する課題の明確化、課題レポート 】
  
- 5回目 11月19日：西原 真由美先生  
日本赤十字社和歌山医療センター 看護管理室  
【 新人看護職員実地指導の実際と振り返り、課題レポート発表 】

受講者は51名（看護師49名、助産師2名）。和歌山県下26病院からの参加で、職位としてはスタッフが44名、経験年数は、1～5年が3名、6～10年が19名、11～15年が14名、16～20年が6名、20年以上が9名であった。



< 講義風景 >

研修の1・2・3回は講義、DVD視聴、グループワーク等を組み合わせ進められた。

4回目には、自部署での看護職員としての基本姿勢と態度、到達したい技術など再度確認し、新人看護職員の指導にあたり課題を明確にする作業を行った。それを病院に持ちかえり、新人看護職員に実施。その評価をレポートし提出した。

5回目は、各受講生がレポートを発表しながら、実地指導者が経験しやすい新人看護職員の問題や困難を再確認し、解決方法を考えていく作業を行った。

まとめとして「5回の研修を通して」のテーマで受講生それぞれが発表したものを抜粋します。

- 同じような悩みを持っている人がいて共有することができた。
- 自分の新人時代に認めてくれたことや不安をカバーしてもらったことを思い出した。
- 自分の看護観の基礎はプリセプターの指導だった。それを肝に銘じて指導に当たりたい。
- 私たちは新人を見ているが、新人は先輩を見ている。しっかり仕事をしなければいけない。
- 指導者だけでなく病棟スタッフ全員で指導できればよい。



< 5回目 質疑応答風景 >

7ヶ月に渡った研修だったが、受講者51名は修了証を受け取った。